

中国東北地域の人口減少について

岡山県上海事務所 馬小琳

(日中経済貿易センター上海事務所)

進む人口流出

2010年の第6回国勢調査によると、中国東北地域の黒竜江省、吉林省、遼寧省の3省を合わせた人口の純流出は180万人であった。2000年の第5回国勢調査では、36万人の純流入であったことから、東北地域の人口が急激に減少していることが分かる。

黒竜江省の省直轄市であるチチハル市においても、同市統計局の戸籍人口の統計で、2014年の流入48,075人に対し、流出は85,854人となっている。

低い出生率

「中国青年報」の報道によると、遼寧省鞍山市のある病院では、産婦人科の入院者用ベッドの半数が空いている。以前の出産件数は、毎月200件から300件であったが、現在は月にわずか50件から60件となっている。

第6回国勢調査によると、合計特殊出生率(1人の女性が一生に生む子どもの平均数)は、黒竜江省と吉林省がそれぞれ1.03、遼寧省が1.0で、全国平均の1.5よりも遙かに低く、大都市である北京や上海より少し高い程度である。また、他国との比較では、2013年の日本(1.43)や韓国(1.19)よりも低い。

「黒竜江省人口発展問題の分析と対策」によると、同省の出生率(一定人口に対するその年の出生数の割合)は、2000年以降、1以下で推移しており、2012年0.73、2013年0.69であり、2013年の自然人口増加率は0.08%に過ぎない。

黒竜江省の0歳から14歳の2012年人口は452万人で、19年前の1993年と比較すると、429.6万人も減少している。この世代が大幅に

減少することは、労働力の減少を意味し、経済に与える影響も深刻である。

深刻な高齢化

人口流出と低出生率に伴い、東北地域では先進国レベルの発展を遂げる前に、高齢化社会に突入した。

黒竜江省の60歳から64歳の2012年人口は569.8万人、同じく65歳以上の人口は340.9万人で、それぞれ人口全体の14.8%と8.8%を占める。1995年から2012年にかけて、この2つの年齢層の比率は2倍にも増加した。

問題の解決に向けて

中国の2014年GDP伸び率が最も低い5つの省の中に、黒竜江省、吉林省、遼寧省の3省が入った。不景気により、これら地域からの一層の人口流出が予測される。

中国は世界第2位の経済大国になったとはいえ、全体では不均衡な経済発展となっており、地域ごとの格差も大きい。様々な要因が絡む東北地域の人口減少問題解決のため、効果的な政策の実施が求められている。

(出典：中国青年報7月14日)

(2015年8月)